

建築の仕事に携わるようになり年を重ねる毎に旅行の際、観光地の建築物が見せる情緒や歴史の深さを感じるようになりました。

私はこれまで大学時代からの友人と3人で年に一度プロ野球交流戦のタイミングに集まり色んな街を訪れました。この度は北海道と宮城県を訪れた時の思い出を綴ってみたいと思います。

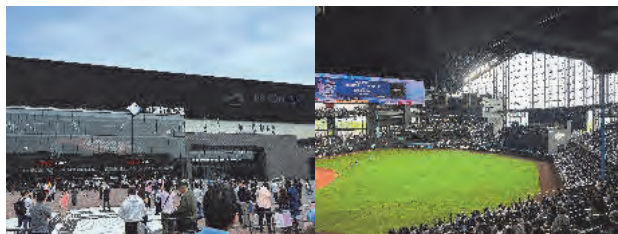
両方の都市の共通点は地方拠点として発展しプロ野球球団を誘致している事、そして水が綺麗な郊外にニッカウヰスキーの蒸溜所がある事が挙げられます。

まずはニッカウヰスキー余市蒸溜所から・・・。
ニッカウヰスキー創業者竹鶴政孝がスコットランドでウィスキーの製法を学び日本に戻って選んだ地が余市。石狩湾に澄んだ雪解け水が流れ込む余市川の脇に 1934 年に大日本果汁株式会社として生まれました。

現地では試飲出来る工場見学を事前予約出来ます。原料の貯蔵所から製造過程の蒸溜設備、最後に樽に寝かせる為の倉庫を見学。創業当時の面影を感じる建物は思わず異国に来ているのかと錯覚します。後に試飲、試飲するのはブレンダーが調合したブランドウィスキーですが別料金で樽の原酒を2杯限定で頂く事が可能です。1ショット2500円と少し値段は高いですがあの深い味わいをこれからも忘れることはないでしょう。



翌日北海道日本ハムファイターズ本拠地エスコンフィールドへ。日本初天然芝開閉式ドーム球場は壮観で観客席とフィールドが近いので一体化した臨場感を感じることが出来ます。スタンド裏が一周フードコートで繋がっている所以全てのエリアから散策しながら観戦しました。道中には蒸溜設備併設の地ビール販売所や名物の日本ハム製品のソーセージで作ったホットドッグなどがあり美味しく頂きました。残念ながらタイミングが合わずきつねダンスが遠目からになったのは唯一の心残りです。



2年後、宮城県仙台へ・・・。

ニッカウヰスキー宮城峡蒸溜所は 1969 年に蔵王連峰清流広瀬川、新川が流れる宮城峡に建てられました。この度も事前予約の見学ツアーを申し込み見学。前述の余市工場にも共通しますが酒造りとは地域の自然との共生であるということに改めて感じます。綺麗な水、空気、自然を大事にしながら共に育む。全ての設備にその意図が感じ取られます。景観の為全ての配線を埋設ケーブルにする。鉄骨のプラント工場ではなく各工程専用の建屋を建て配管で繋ぐ、計画的な近隣の森林の植樹伐採。

酒の味と建築設備が自然に溶け込む景色に感動を覚えました。



翌日東北楽天ゴールデンイーグルス本拠地楽天モバイルパーク宮城へ。2004 年東北初のプロ野球球団として誕生したイーグルス。2013 年には田中将大投手を擁し日本一に輝いた当時を覚えている方も多いかと思います。当時の仙台市民球場の面影を残しつつ NPB フランチャイズ球場へと生まれ変わったモバイルパークはエスコンフィールドとは違う趣を感じる美しい場所です。屋外球場の開放感や観客の球団への愛情など観戦しながら感じました。



この度、旅の記憶を思い返しながら綴りましたが私の酒好き、友人の阪神タイガース愛が講じ色々な体験が出来ている事、皆さんにお伝え出来る事に感謝しています。これからも毎年色んな街を訪れる予定です。又皆さんにお伝えする機会があることを楽しみにしています。